

やすらぎ く秋景・仏像・作法

六世版隈 浦田周社が 浮世絵の伝統技法で 描いた作品の数々

2019年10月15日(火)～2020年3月31日(火)

開館日／月～金曜日 9:00～18:30 土曜日 9:00～17:00
(大学長期休講期間：月～土曜日 9:00～17:00)

休館日／日曜・国民の祝日・大学行事開催日・大学休校日

入館料／無料

住所／静岡産業大学藤枝キャンパス(メディア・アートセンター藤枝図書館内)
〒426-8668 静岡県藤枝市駿河台4-1-1

アクセス方法 JR「藤枝駅」北口からバス「藤枝市立総合病院」行き乗車、「静岡産業大学」または「藤枝市立総合病院」下車、徒歩2分



見・聞・録による石橋正二郎伝～ロマンと心意気～

世界シェアトップを誇るタイヤメーカー、
ブリヂストン創業者石橋正二郎の経営者魂に学ぶ。

タイヤシェア世界一を誇るブリヂストンの歩みは、福岡・久留米の小さな仕立て屋から始まった。家業を継ぎ地下足袋、ゴム靴、自動車タイヤへと事業発展の道を切り開いた石橋正二郎。その生涯はロマンと心意気に満ちている。芸術・文化振興に尽くした姿は企業家としての1つの理想形でもあった。生誕130年の節目、かつて身近に仕え経営学研究に転じた本学の大坪学園長が数々のエピソードを交え正二郎の哲学と実践の意義を問う。静岡産業大学オオバケブックスシリーズ。

著者：大坪 檀 出版元：静岡新聞社 本体価格(税抜)：1,500円 発行月：2019年07月



●図書館のご利用について

開館時間	磐田キャンパス		藤枝キャンパス	
	月～金曜日	9:00～19:00	月～金曜日	9:00～19:00
	土曜日	9:00～12:00	土曜日	9:00～17:00
休館日	日曜日、国民の祝日、大学行事日、夏季・冬季休講中の一定期間等			
利用資格	静岡産業大学の学生・教職員・非常勤講師、一般市民(高校生以上)			
利用方法	一般の方は初回ご利用時に運転免許証や学生証などの身分が証明できるものをご提示ください。			
お問い合わせ	0538-36-8844		054-646-5441	

※開館情報詳細については静岡産業大学HP「開館カレンダー」でご確認ください。

●大学施設のご利用について

本学では、授業及びクラブ・サークル活動で使用する時間を除き、学外の方が大学施設を利用することができます。詳しくは各キャンパスの総務課までお問い合わせください。

	磐田キャンパス	藤枝キャンパス
利用可能時間	9:00～21:00	9:00～21:00
主な施設	各種講義室、グラウンド、スポーツセンター テニスコート等	各種講義室、コンピュータ演習室 体育館、フットサルグラウンド等
利用料金	詳細は静岡産業大学HP「貸出使用施設一覧・料金表」でご確認ください。	
お問い合わせ	0538-37-3851(磐田事務局 総務課)	054-645-0191(藤枝事務局 総務課)

磐田キャンパス
〒438-0043 静岡県磐田市大原1572番地1号
TEL: 0538-37-0191(代表)

藤枝キャンパス
〒426-8668 静岡県藤枝市駿河台4丁目1番1号
TEL: 054-645-0191(代表)

藤枝駅前サテライトキャンパス BiViキャン
〒426-0067 静岡県藤枝市前島1丁目7番10号
TEL: 054-639-7164

SSU NEWS



大坪 檀学園長に聞く

人生100年時代を 豊かに生きる秘訣

SSU キャンパスフォトアルバム

SSUの学びをもっと面白くするアクティブラーニング

SSUで受けられる、こんな授業

ゼミスタグラム 磐田キャンパス佐藤ゼミ／SSU卒業生インタビュー

SSU NEWS

31



SSUキャンパス フォトアルバム

いつもの磐田キャンパスの何気ない1日の特別な風景。
静岡産業大学には保育士養成課程が設置されており、
学生たちは日々の授業や実習、課外活動を通して保育力を磨いています。



「保育・教職実習演習」では保育士を目指す学生が、今までの学習を振り返りながら、自身の保育技術や知識に関する課題を見出し、学生同士で意見を交わしながら解決を図っています。



スポーツ保育の実践の場でもある『キッズスクール』では、スポーツ保育サークル(すきゃもん)の学生が主体となって運営を行い、子どもたちに運動遊びの指導をしています。





御年90歳!

大坪檀学園長に聞く 人生100年時代を 豊かに生きる秘訣

「人生100年時代」と言われています。
100年という長い時間を充実させるために、私たちは今、何をすればいいのでしょうか？
今年卒寿を迎え、まさに人生100年を謳歌している大坪学園長にお話を伺いました。



大坪 檀 (おおつば・まゆみ)
学校法人新静岡学園 学園長
静岡産業大学総合研究所 所長

1929年生まれ、東京都出身。東京大学経済学部卒業後に渡米し、カリフォルニア大学ロサンゼルス校経営学大学院にてMBAを取得。1958年、株式会社ブリヂストンに入社。経営情報部長・米国法人経営責任者・宣伝部長を歴任。ハーバード大学やノースカロライナ州立大学で客員研究員を務める。また、ペンネーム千尾将(ちお・まさる)で執筆活動にも注力。1987年より静岡県立大学経営情報学部教授・学部長・学長補佐を務め、1998年に静岡産業大学へ。国際情報学部教授・情報学部教授を経て、学長に就任。学校法人新静岡学園理事長を経て2016年より現職。

——人生100年時代に入ると、私たちの働き方や生き方はどう変わるのでしょうか？
戦後1950年くらいまで、日本人の寿命は男女ともに60歳前後でした。当時の定年年齢は55歳。「終身雇用」という言葉が流行した時代でもあります。終身雇用とは、文字通り「死ぬまで雇用する」という意味です。人生60年のうち55歳まで一つの会社に雇われ続けるのが一般的だったのですから、まさに「終身雇用」といえるでしょう。退職後、残された時間はわずか5年です。5年の余生をのんびり気ままに過ごし、人生を終える……。そんな生き方が主流でした。
ところが、食生活や医療水準が格段に向上したおかげで寿命はどんどん延びています。私のように元気な90歳も増えています。今、65歳まで従業員の雇用機会を確保することが企業に義務付けられましたが、人生100年ならリタイア後の人生は35年間もあります。余生とするには長すぎますよね。人生60年、終身雇用時代の人生設計はもはや通用しません。働き方について考え直す時期がきているのです。
人生100年だとしたら、あなたは何歳まで、どんな仕事をしたいですか？ 農業やフリーランスのように定年のない仕事を選べば、死ぬまで働くことも可能です。そういう僕もフリーランス。だから、自分の好きなことをして今も働いています。その代わり、働き続けるためには常に勉強して知識や技術を磨かなくてははいけません。
就職するにしても、これまでのように一つの会

社に定年まで勤めるというのは難しくなるでしょう。実際、本業を持ちつつも別の活動を行う「パラレルキャリア」という働き方を志す人が増えています。ちなみに、私は50年も前にパラレルキャリアを実践していたんですよ。タイヤメーカーのブリヂストンで働きながら、大学で教えたり本を書いたりしていました。そういう働き方を認めている会社はまだ少数派ですが、これから社会に出る人たちは、いつまで、どうやって働くのかをきちんと考えておかななくてははいけません。
これまでの日本では、会社や社会に「あなたはうちの会社で60歳まで働いてください」と決められて、その通りに働いていれば何とかできました。けれど、今は違います。働き方を自分で決めなくてはいけない時代になったのです。だからこそ、何のために働くのかも見つめ直さないと。では、何のために働くのか？自分のためです。楽しく愉快地、実りある人生を送る。そのために働くのです。
——人生100年時代を楽しく生き、実りある人生にするために何が必要でしょうか？
人生100年時代になったら、自分の人生を他人のせいにはできません。たとえば、「私は大学に入れなかったから、自分のやりたい仕事ができなかった」とか、そういう言い訳はできなくなりました。長生きして健康だったら何回でもやり直せる時代になったからです。100年という長い時間を誰のために生きるのか？いかに生きるのか？どんな人生を送りたいのか？働き方と同じように、改

■人生100年時代とは？

ロンドンビジネススクール教授のリンダ・グラットン氏が、著書『LIFE SHIFT(ライフシフト)』で提唱した概念。同書は世界的なベストセラーとなりました。日本でも、人生100年時代を見据えた社会を作り上げるための政策が進められています。

■日本人の寿命

日本人の平均寿命は男性は「81.09歳」、女性は「87.26歳」となっています(厚労省「平成29年簡易生命表」より)。2050年には女性の平均寿命は90年を超えると見られています。なお、1950～52年時点の日本人の平均寿命は男性59.57歳、女性62.97歳、1980年は男性73.35歳、女性78.76歳でした。

めて考える必要があります。

長期的な視点も欠かせません。今は◎◎をしよう、その次は▲▲をしよう、と計画を立てて実行していくことが大事です。とはいえ、100年という時間を具体的にイメージするのは難しいもの。そこでおすすめしたいのが未来年表です。年表と聞くと、過去をまとめたものを思い浮かべる人が多いかもしれませんが。でもそうではなく、5年後、10年後、15年後、社会はどうなっていて、自分はどう生きたいのかという、未来に向かって自分の年表を作っていくのです。未来年表を作るうちに、100年という人生をより具体的にイメージできるようになるはずです。

健康も大切です。年をとっても健康であれば色々できて楽しいでしょう？僕みたいだね(笑)。また、健康ならお医者さんのお世話にならないで済むし、介護も必要ありません。つまり、健康でいることは社会貢献にもなるわけです。ただし、医学が発達するだけでは、誰もが健康で長生きできる社会は実現できません。もちろん、医学は発達しないと困ります。だけど、いくら医学が発達しても、当人が不健康な生き方をしていたらどうしようもないでしょう。タバコは吸わない。飲酒は慎む。規則正しい生活をし、適度に運動する。そうやって自分を律する心も大事です。

これからの日本には、みんなが健康で長生きできる社会作りに貢献できる人材が必要です。そして、そんな人材を多く輩出したいとの思いから、本学ではスポーツ教育に力を入れているのです。

——先ほど、「働き続けるためには常に勉強して知識や技術を磨かなくてはいけない」とおっしゃいました。なぜ、学び続けることが必要なのでしょう。

世界はかつてないスピードで発展しています。せっかく身につけたスキルや知識も、あっという間に時代遅れになってしまう。だから、働き続けるためにも、人生を充実させるためにも、常に学び続けなくてはならないのです。

学ぶとひと口にいても、さまざまな学びがあります。大学生であれば、たとえば何か1つのテーマに絞って専門的に勉強してみてください。社会に出てすぐに役に立つような分野でなくてもかまいません。大切なのは、学びの方法論を覚えることです。世の中には、医学の勉強をして博士号を取って、さらに弁護士の資格を取るような人がいます。そんなことができるのは、彼女らが、深く学ぶ過程で勉強の方法論を身につけたからです。「どう学べばいいのか」という方法論がわかっているれば、まったく違う新しい分野でも成果を出せます。

教養も必要です。教養と聞くと、余裕のある人が身につけるもの、社会では役に立たないもの、というイメージを持つ人もいるかもしれないけれど、そうじゃない。専門性を活かして生きるためにも、科学技術の発達にも、教養はなくてはならない存在です。教養とは、簡単に言えば、先人の知恵・考え方・生き方の学びです。歴史や文化を知ることです。教養なくして、何かについて考えた

人生100年時代に 知っておきたい 3つのキーワード

■パラレルキャリアって？

本業を持ちつつも、本業以外の仕事をしたり、ボランティア活動を行ったりすること。パラレルキャリアによって個人のスキルや能力が向上することを期待して、パラレルキャリアを推進する企業も出てきています。

り、判断したりすることはできません。

昔の日本の教育は教養教育でした。それがいつしか実学(実践的な学問)重視となり、「儲かる学問」「社会に出てすぐに役立つ学問」ばかりが優先されるようになってしまいました。成功するために、つまりは偉くなるとかお金持ちになるために学ぶようになったのです。もちろん、実学も大事です。お金持ちになるのだって悪くない。だけどお金の亡者になるのはよくありません。

今年、『見・聞・録による石橋正二郎伝～ロマンと心意気～』(静岡新聞社)を出版しました。石橋さんはブリヂストンの創業者であり、僕のかつての上司でもあります。本にも書きましたが、石橋さんとアメリカの大富豪・ロックフェラーの対談に立ち会った際、非常に印象的な台詞を聞きました。「お金を稼ぐより、使うのが難しい」。二人はそう語り合っていたのです。

日本の多くの経営者は、成功してお金を貯めて、いずれはお金持ちになりたいと願っています。でも、それは経営者のあるべき姿とは違っています。稼いだお金を社会のためにどうやって使うかを考えて、築いた富でみんなを豊かにすることが経営者の本来の役割なのです。社会で本当に尊敬されるのは、成功者でも大富豪でもなく、教養がある人です。教養は、品格や徳と言い換えてもいいでしょう。教養も品格も徳も、数字では表せない不明確な測定値です。けれど、その不明確な測定値を高めることこそが、自分も、まわりの人も楽しく豊かに生きるための秘訣なのです。

—「常に学び続けたいといけない」と言われると、つい「面倒だな」「大変そう」と思ってしまうです。

それはもったいないですね。楽しく学ばないと。そもそも、学ぶのは楽しいことです。だから、私は常々、「楽学・学楽」と言っています。学ぶのが面倒、つまらないと思ってしまふ理由の1つには、学校でそういう教育を受けてしまったことがあるかもしれません。勉強が楽しくない、嫌いという子どもに聞いてみると、本当に嫌なのは先生だったりします。勉強ではないんですね。これは教える側の責任です。だから本学では、教員の教育力の一層の向上を目指して、ラーニングメソッド研究会を行っています。

また、教室で先生の話聞くだけが学びではありません。写真を撮るのだって、絵を見るのだって、スポーツをするのだって学びです。僕にとっては学生たちとの会話も学びです。その気さえあれば、人はいつでもどこでも学べます。

もう一つ、これは学びに限りませんが、楽しくないと感じてしまうのは、人生を楽しく生きよう、面白く生きようと思っていないからです。「楽しんでやろう」「面白がってやろう」と思っていれば、楽しいこと、面白いことはいくらかありますよ。逆に聞きたいけれど、楽しくないもの、面白くないものってある？人生は楽しくなくちゃ。楽しむことは本当に大事です。たとえば、スポーツで結果を出すには根性が必要だという考え方があります。確かに根性は大切です。でも、どうやったら根性が出るか知ってる？楽しいからだよ。面白いからだよ。僕もこれまでいろいろな仕事をしてきましたが、持続できたのは楽しかったからです。

ただ、「楽しい」の意味を取り違えないでほしいと思います。「楽しく生きる」「楽しく働く」という

と、「豪華な食事をしてお酒を飲んだり、仲間とわいわい騒いだりする」みたいな生き方・働き方をイメージする人もいるようですが、それは単なる余興であって、人生60年時代の考え方です。楽しいというのは、自分の能力を発揮して、自分のやりたいことで人生を充実させること。そして、自分だけでなく他人も楽しく豊かに生きられるように、社会に貢献することです。どうしたら本当の意味で楽しく生きられるのかを、これを読んでいる皆さんには改めて考えてほしいと思います。

—学生へのメッセージをお願いします。

大学は、教養や知識、技術を身につける場所です。同時に、友人を作るところでもあります。友人は人生の資産です。大学内でもいいし、アルバイト先でもいい。性別、年齢、国籍を問わず、たくさんの友人を作ってください。ある研究によると、長生きする人には、ソーシャルエンゲージメントが強いという共通点があるそうです。ソーシャルエンゲージメントとは、社会との絆のことです。友人が多ければその分、社会とのつながりが増えます。社会とのつながりが増えれば、いろいろな物事に興味を持つようになって脳はたくさんの刺激を受けます。だから、ソーシャルエンゲージメントが強い人は長生きしやすいのでしょう。僕自身、大学時代に会った友だちと今でも交流がありますよ。学生の皆さんには、どうかたくさんの友だちを作ってほしい。困難な状況に陥っても、肩を叩いて励ましてくれる友だちがいれば、世の中のたいていのことは何とかなります。

また、良きメンターとの出会いも人生を幸せにしてくれます。メンターとは人生における師、お手本です。メンターは大学の先生でもいいし、友だちでもいい。僕にも、先述のプリヂストンの創業者・石橋正二郎さんをはじめ多くのメンターがい

ました。たくさんの人に出会う努力と、相手から学ぼうという姿勢を忘れなければ、きっとすばらしいメンターに出会えるでしょう。

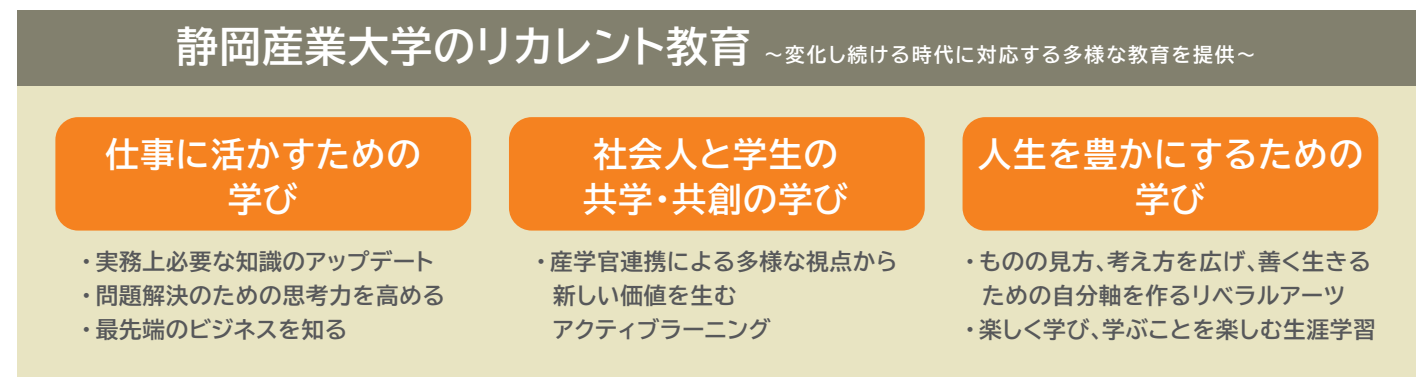
最後に、「どんな人にも時間はある」ということを忘れないでください。神様が唯一、人間に公平に与えたのが時間です。人種、職業、貧富の差にかかわらず、誰もが1日は24時間です。「時間がない」が口癖の人が多いけれど、それはウソ。時間はちゃんとあります。時間がなくてやりたいことができないと感じているなら、それは時間を無駄遣いしているか、一度にたくさんやろうとするせいでしょう。英語を話せるようになりたいなら、朝に1つ、昼に1つ、夕方に1つ、1日に英単語を3つだけ覚えたい。それを365日続けたら、覚えた単語は1000以上になります。10年継続したら大変な数になる。やりたいことをできる時間を、みんな平等にもらっているのです。

しかもその1日24時間を、80年、90年、100年と続けられるようになりました。これは本当にすばらしいことです。人生60年時代のときは、人生はやり直しがきかない一発勝負でした。一方で、100歳まで生きられる今、人生60年時代のときは比べものにならないほど、多くの物事に挑戦できます。たとえ失敗しても、2回でも3回でもやり直す時間があります。

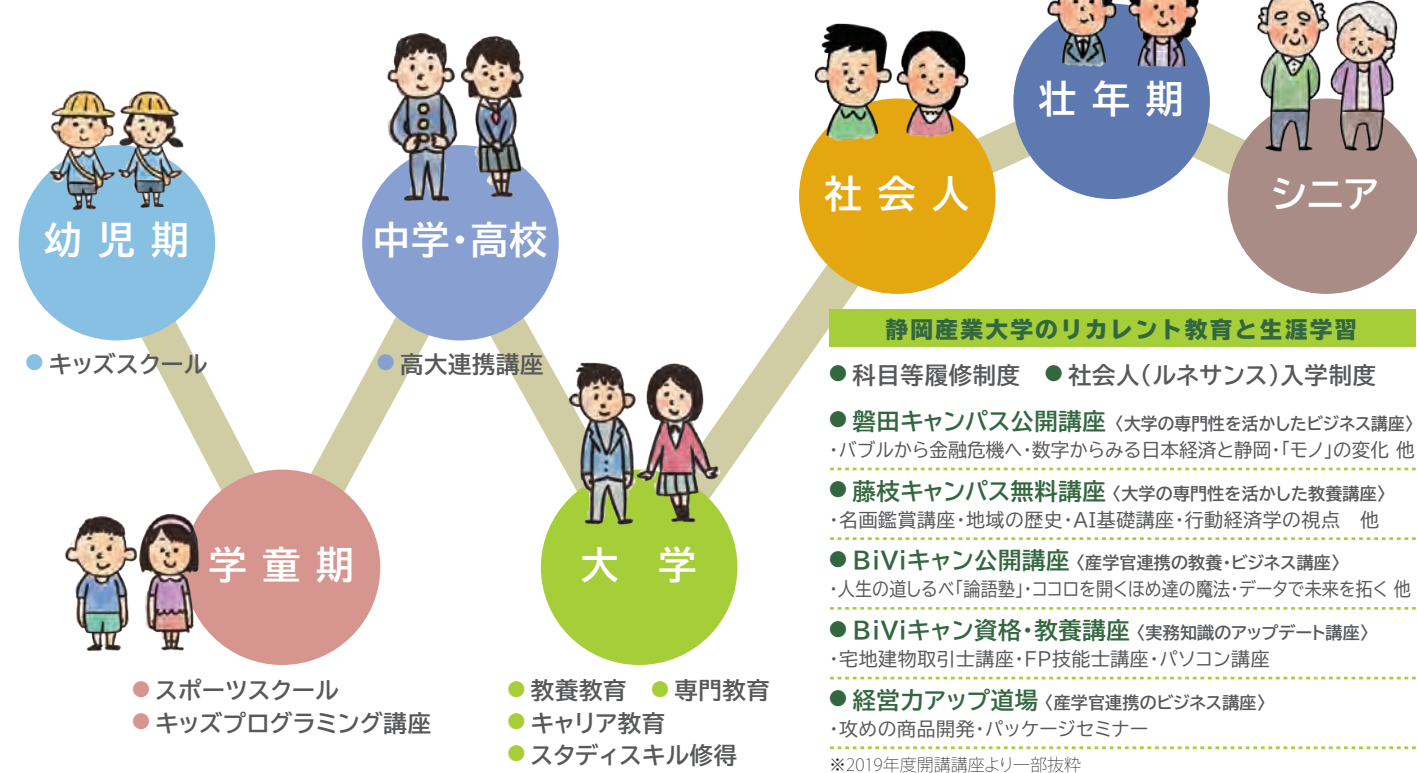
日本は戦後70年かけて、人生100年という時間と、健康を手に入れました。おかげで、人生を実りあるものにすることが出来ます。ある意味、日本人は世界で最も豊かな国民になったといえるのではないのでしょうか。そんな時代を生きるこれからの学生の皆さんには、ぜひ、大学でいろいろな経験を積んで、自分の人生を楽しく、意義あるものにしてほしいと思います。

人生100年時代の学び方

「人生100年時代」と言われる今、定年延長の議論や老後資金の話を目にするようになりました。また、人口知能(AI)の活用などの技術革新により働き方も変わりつつあります。寿命が延びた分、これまでのような「学ば→働く→リタイア」の直線的な人生ではなく、「学ば」「働く」「自己実現・社会貢献」を交互に繰り返す人生設計が必要です。静岡産業大学では、リカレント教育を含めたライフステージに応じた多様な学びの機会を提供しています。



静岡産業大学のライフステージに応じた学習機会の提供



「時間がない」はウソ。
誰もが1日24時間、
やりたいことをできる時間を
もらっています。

楽しくないもの、面白くないものってある？
楽しむ姿勢があれば、楽しいこと、
面白いことはいくらかあります。

友だちは人生の資産。友だちがいれば、
世の中のたいていのことは何とかなります。



SSUの学びをもっと面白くする アクティブラーニング

まちづくり論

「まちづくり」を通じて、これからの世界を生き抜く力を養う



私は以前は磐田市役所に勤めていました。その経験を活かして、2015年より本学で「まちづくり論」を教えています。近年、まちづくりという言葉がさまざまな分野で使われていますが、本講義では、地方自治のあり方や市政、税制について学ぶのはもちろん、日常生活に関わる広範な領域を対象とした現場実習、つまりはアクティブラーニングを行っています。磐田駅前の軽トラ市に参加したり、磐田市消防署を訪ねて大学OBに話を聞いたり、袋井市の可睡斎で座禅体験をしたり。2019年度後期に開講している「まちづくり論Ⅱ」「まちづくり論Ⅲ」では、15回の講義のうち、9回がアクティブラーニングとなっています。

私がアクティブラーニングを重視するのは、学生たちに自ら考え、行動する力を身につけてほしいからです。従来の大学教育は知識詰め込み型で、学生は受け身にならざるを得ませんでした。一方で、アクティブラーニングは能動的「楽」習です。現場を実際に見て、感じて、さまざまな経験を積むことで、自ら考え、行

動する力が育まれます。自分の頭で考えて自主的に行動する力は、ITやAIが発展するこれからの世界を生きる学生たちにこそ必要ではないでしょうか。

また、多くの大人に出会って話を聞くなかで、学生たちが過去・現在の自分と向き合い、将来の選択肢を広げて、これからの生き方を考えるきっかけをつかんでくれたらと思っています。

もう一つ、現代人は「衣食足りて礼節を知らず」ともいわれますが、学生たちにはそうならないでほしい。ですから、学外に行った際は、起立、礼をして「よろしくお願いします」、終わりに「ありがとうございました」の挨拶を徹底させています。同時に、「ありがとう」とは、めったに有り得ないという意味。心を込めて挨拶すれば気持ちが伝わるよ」という話もしています。今後は、常に変動する社会の中で学生が市民としての役割を確実に果たせるよう「シティズンシップ（市民としての在り方）教育」として取り組めたらと思います。

竹森 公彦（たけもり・きみひこ）特任教授

「まちづくり論」の
アクティブラーニングは、
ここが面白い！

警察官に消防士、幼稚園教諭など、
さまざまな職業の人に会って現場の声を聞けます！

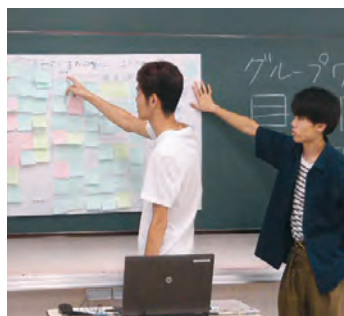
座学ではできない体験ができて、
そのうえ単位もとれるのが
うれしい（笑）

千崎 隼（せんざき・はやと）くん
経営学部スポーツ経営学科3年

教員を志望しているので、現役の教員の方の
話を聞いたのはとても有意義でした

「まちづくり論」の
アクティブラーニングでは
こんなことをやっています！

講座の終盤にはワークショップを実施。「ワークショップをすることで、学生同士に互いの考えを共有してもらい、コミュニケーション能力を向上できればと思っています」（竹森特任教授）



アクティブラーニングでは市外に出かけることも。この日は袋井市の市役所を訪れ、袋井市のまちづくりについて学びました。その後、可睡斎で座禅にチャレンジ。学生たちにとって自分を見つめ直すいい機会になりました。

ちびっ子 チャレンジカップ

AI時代だからこそ求められる「人間らしさ」を磨く



2018年度より、「スポーツ保育」、「健康とスポーツ」、「こどもの身体の発達」などの科目を担当しています。普段の講義でもアクティブラーニングを意識した授業を行っていますが、昨年3月から、ゼミ生を中心に「ちびっ子チャレンジカップ」（以下、CCC）に参加しています。CCCは、小学校低学年までのお子さんとその保護者を対象としたイベントです。体力測定やじゃんけん大会、サッカー体験ブースなど、子どもが体を動かしながら楽しめるさまざまなプログラムがあります。学生たちの主な役割は、体力測定の補助と各ブースのお手伝い。今年9月に行われた第2回CCCでは、学生が子どもたちと一緒に歌って踊るステージもありました。学生たちの真剣な様子を見て、「SSUの学生は頑張っているね！こんな人材がほしい」と言ってくださった企業も。これは嬉しかったですね。

CCCには700～800人の子どもの参加があります。これだけ大勢の子どもを相手にする機会は滅多にありません。また、今年の夏は、磐

田市と連携してキャンパス内に学童保育を開設。スポーツ保育などを学ぶ学生たちが運動遊びの指導に加わりました。自分たちが考えた運動遊びに子どもたちはどんな反応をするのか？どうしたら楽しんで運動遊びに取り組んでくれるのか？子どもたちと実際に接してみても初めてわかることがたくさんあります。学生たちが、「今回考えたゲームでは、年齢の違う兄弟と一緒に楽しむのは難しいみたいだから、次はどうしたらいいだろう？」と自主的に考えて試行錯誤をくり返す様子は本当に頼もしく、成長を実感しました。

これからはAIの時代だといわれています。そんな時代だからこそ、他者への共感や創造性といった人間らしさが重要になってくると思うのです。そして、他者への共感や創造性は座学だけでは育まれません。学生たちにはアクティブラーニングを通していろいろな経験を積み、人間らしさを養ってほしいと思っています。



香村 恵介（こうむら・けいすけ）講師

香村ゼミの
アクティブラーニングでは
こんなことをやっています！

CCCに参加する子どもたちに、運動遊びを教える学生たち。「学生たちにはいつも、他人から価値をもらうだけでなく、他人に価値を与えられる人になってほしいと伝えています」（香村講師）



実習で接する子どもは多くて数十人ですが、CCCでは数百人もの子どもたちとふれ合えます。アクティブラーニングを通じて得た学びは、学生が社会に出たときにきっと役に立つはずです。

香村ゼミの
アクティブラーニングは、
ここが面白い！

CCCへの参加は、大学やアルバイトではできない体験の連続です。普段はなかなか知り合う機会がない企業・団体の大人の方たちと一緒に、

「CCCを成功させる」という
共通の目標のもと活動することで、
たくさんの気づきと学びを
得ることができました！



高井 彩（たかい・あや）さん
経営学部スポーツ経営学科4年

香村先生の行動力がすごい！
学生の「やってみたい」という声に全力で応えてくれます。

SSUで受けられる、こんな授業

社会の様々な場面で役立つ、地域を見るチカラ

町や都市を発展させるためには、法制度を用いて仕組みを作る公共政策が必要です。その公共政策を専門とする小泉先生は、静岡県庁や国、市町村の様々な部署を歴任し、30年以上も地域に向き合ってきた地域学研究者です。

そんな先生が教える「しずおか学」は、静岡の自然、歴史、産業や都市の成り立ちを学びつつも、本質は地域学。「静岡を詳しく知るだけではなく、地域を知るための洞察力や分析力を身につけることで社会の様々な場面に役立つと考えています。たとえば店を開く時にも、地域の特色や成り立ちから見ていくことは価値を生み出すことにつながります」と先生は言います。

静岡で生まれ育った小泉先生は少年時代から郷土史を好み、今もメモ帳を片手に調べる現

場の達人。「当たり前と思っていることも、なぜだろう?と関心を持つことで学びの扉が開かれます。それを習慣化するために、現地演習で商店街や企業を訪問しています。パン屋がオープンすれば、なぜここに開いたか尋ねる。街を歩きながら、成り立ちを解説することもあります。一般的に、駅に近い町から1丁目、2丁目…とされていますが、静岡県呉服町は特殊で、1丁目よりも2丁目が静岡駅に近い。城下町の南端に駅が出来たからなんですね。体験しながら地域を見るコツを掴んでいきます」。

小泉先生が考える静岡産業大学の魅力はズバリ、実学。「実例を取り上げて、世の中の仕組みを教えてください先生方が多いですね。企業の多くは、入社してから必要なことを教えるスタンスですから、それを十分理解できる素養を、本

学で学べるわけです。『しずおか学』は、私が長年調べてきた情報を盛り込んだもので、他大学では教えていない独自の授業です」。

人も、企業も、地域の一員です。地域を見る力や関心を持つ習慣を身につけることで、公務員をめざす学生だけでなく、様々なジャンルで活躍できる人材になれるはずです。



長年のノウハウから生み出した地域を見るチカラを身につける

● 授業科目名 「しずおか学」「自治体経営論」「事業評価論」「非営利組織経営論」等
静岡の特色や成り立ちを題材に、地域を見る力を習得する。
地域経営の発想を身につけ、地域の将来ビジョンを構想する力を養う。



小泉八雲の言葉、「味気ない事実にはイマジネーションという味付けをするのが教師の役割だ」をモットーとする小泉先生の授業は、本県の産業をデータ化するだけでなく、「水資源が豊富なことで化粧品工場が多く立地した」、「HONDAの原付は女性をターゲットに開発された」などのエピソードが多く、好奇心が刺激されます。授業の後半は、4人ほどのメンバーを毎回変えてグループ討議。ポイントは、初めて話す人とも会話し、短時間で発表すること。社会で必要とされる素養を身につけます。

小泉 祐一郎 教授
Yuichiro Koizumi

名古屋大学法学部法律学科卒業、法政大学大学院公共政策研究科博士後期課程修了、公共政策学博士。専門は法学、公共政策学、人文地理学、地域学。静岡県、自治省、小笠町、総理府に勤務。地域総合整備財団地域再生マネージャー事業アドバイザー。静岡市行政改革審議会委員、沼津市総合計画審議会会長、藤枝市協働推進懇話会委員長など公職多数。主な著書に「土地利用・開発許可制度の解説(2010、ぎょうせい刊)」他多数。

小粒でもキラリと光る個性を育て、伸ばす授業がSSUにはあります。指導熱心で学生の興味と元気を引き出す教員たちの授業を潜入レポート!

社会で役立つ知識とスキルが身につく

大沼先生は「スポーツ経営学」「スポーツマネジメント論」「スポーツ用品論」などの科目を教えています。科目によっては受講生が70名を超えることも!多くの学生に講義に積極的に参加してもらうために、大沼先生が心がけていることは…?「スポーツ経営学であれば、ただ単に経営学の基礎知識を伝えるだけでなく、スポーツメーカーやプロスポーツの実例を交えながら教えています。企業や自治体が実際にどんな取り組みをしているのかを知っておくことは、社会人になったときにきっと役に立つはずですから」。

さらに、課題を出す際には、いくつかの条件を設定するようにしているとのこと。「あなたはスポーツメーカーに勤めています。ある日、A市と連携してスポーツ事業を始めることになりま

した。A市の人口は10万人で人口構成比は高齢者が多く、スポーツ施設が5つあります。あなたはどんなスポーツ事業を企画しますか?」という具合です。「いくら知識があっても使えなければ意味がありません。一定の制限がある中でアイデアを練りながら、自分の知識を現実はどう活かせばいいのかを体感してほしいのです」と先生は話します。

グループワークを行う際にコミュニケーションを重視するのも大沼先生の講義の特徴です。「社会に出ると、答えのない課題をチームで解決しなくてはいけない機会が多々ありますよね。そういった場面では、自分の考えや思いを言語化して人に説明する必要があります。また、1人が持つ力が10だとして、5人でチームを組んだとき、発揮する力が10×5=50では社

会では通用しません。他者と協働しながら50の何倍もの力を出すことが求められます。学生たちにはチームで結果を出すためのスキルを、グループワークを通じて身につけてもらいたいのです」。先生の講義で得た知識とスキルは、卒業後の学生たちの大きな強みになるはずです。



スポーツを切り口に、ビジネスやジャーナリズムに必要な素養を磨く

● 授業科目名 「スポーツ経営学」、「スポーツマネジメント論」、「スポーツマーケティング論」、「スポーツ用品論」、「スポーツジャーナリズム論」等
スポーツを事業として営むために必要となる経営学やマーケティングの知識を習得する。
スポーツをさまざまな角度からとらえる柔軟な視点を養う。



「スポーツジャーナリズム論」の様子。講義の後半には、スポーツ映像に合わせてナレーション原稿を作る課題が出され、学生たちは集中して取り組んでいました。「スポーツ用品論」では、スポーツに関する新製品を開発するという課題もあるとか。2016～2019年にかけては、ゼミ生を中心にラグビーの広報活動も実施。情報誌の制作やイベント運営を手がけ、その様子はテレビでも紹介されました。

大沼 博靖 准教授
Hiroyasu Ohnuma

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程修了。1993～2007年までベースボール・マガジン社に勤務。新雑誌の立ち上げや宣伝などに携わる。その後、青山学院大学総合研究所eラーニング人材育成研究センター、青山学院大学ヒューマンイノベーション研究センター、高崎商科大学短期大学部を経て、2016年より本学に着任。自身の研究テーマは、「個人のスポーツに関する『暗黙知』を可視化することで、個人および組織がどう変化するか」。ICTの活用についての研究も行う。





静岡産業大学のゼミでは、どのような学びが行われているのでしょうか？

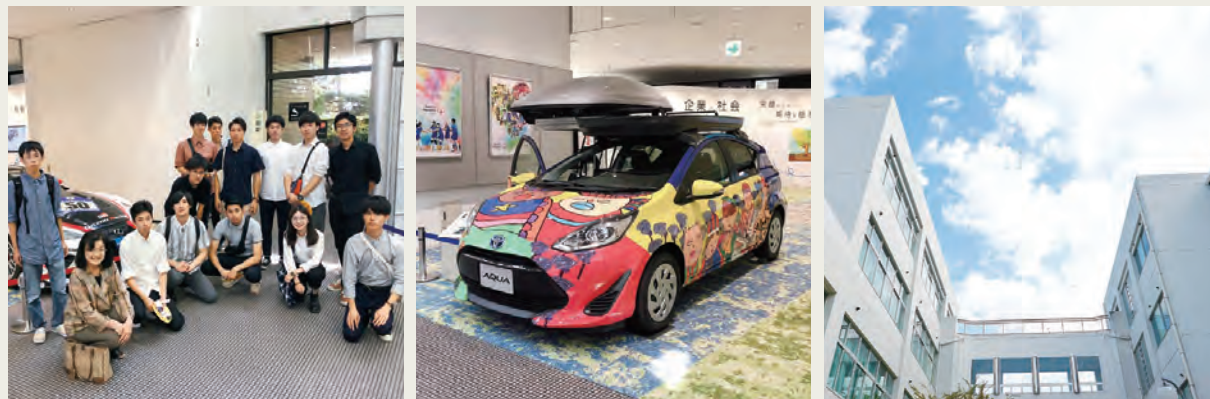
今回は、佐藤和美教授の専門ゼミナールに密着！学生の様子をInstagram風にご紹介します。



先生や仲間に相談しながら、対象企業について調べる学生たち。ゼミ終盤には研究の成果をみんなの前で発表します。



今年度のゼミ生は13名。例年、地元の祭りやボランティア活動など、企業以外について研究・発表する学生もいます。



企業研究では学外に飛び出し知見を広め(写真はTOYOTAの工場)、気分転換にキャンパスを散歩、青空を眺めることで発想も豊かに。



ゼミでは、論文の書き方を学んだ後、興味がある企業を選んでもらいます。それから約1年かけて、事業概要、経営戦略、業界内での位置づけ、財務分析、収益性、安全性などの観点から企業を研究します。ゼミは大学での学びの集大成です。一方で、一生の友だちと出会える場でもあります。ゼミ仲間は一生の仲間になるでしょう。

佐藤 和美 教授/Kazumi Sato
明治大学大学院商学研究科博士後期課程
単位取得満期退学。専門は管理会計、公
計、経営分析、公共経営。学生たちには、管理
会計の視点から企業経営を考える手法を教
えている。

「楽しいゼミだった!」「一生もの
の仲間に出会えた」。卒業後、
そんな風に思ってもらえるゼミ
でありたいと思っています。



SSUの出会いが人生を輝かせてくれました!

大学の海外研修で英語に目覚め、英会話スクールを開校したヌルールアクタル奈保子さんにお話を伺いました。

英会話講師を目指したきっかけは？

父の影響で英語に興味を持ち、在学中、法月健先生の
熱心な指導に感銘して先生のようになりたいと思いました。

Q SSUで学んだこと、
得たことは？

視野が広がったと思います。サークルや
部活動では多くの留学生と交流しました。
ニュースだけでは偏見を持ってしまいま
すが、実際に人と触れ合い、文化や想いを
知ることで見方は変わるんですね。2年次
に参加したニュージーランド研修では意
思疎通が図れず落ち込んでしまったこと
もありましたが、感情を表に出すことで交
流が深まりました。帰国時にホストファミ
リーから、「英語が上達したね」と言っても
らえたことが自信につながりました。

Q SSUに入学して
よかったことは？

良い出会いに恵まれたことです。SSUは
先生方も、事務の方々も温かい人たちが
かりで、悩み事もすぐに相談できる距離
の近さが魅力だと思います。なかでも、法
月先生との出会いは大きかったですね。入
学当初、Helloから教わるレベルでした
が、先生は何十行にも及ぶ解説で質問に
答えてくれました。英会話スクールを開校
できたのも、先生方をはじめ、大学で出
会った人たちの協力があつたからこそで
す。お金では買えない宝物です。



体験型英会話スクール タートルフレンズ 経営

ヌルールアクタル奈保子さん

(2012年3月情報学部卒業)

【プロフィール】

SSU情報学部国際情報学科入学



2年次にニュージーランドへ語学研修
英語力アップを決意する



帰国後、法月健先生のゼミを受講
日本語サークル、和太鼓部で
留学生に日本文化を伝える



卒業後、オーストラリアへ語学研修
帰国後、英会話スクールに就職し
約100名の生徒を指導



国際教養大学に研究生枠で入学
修了後、「タートルフレンズ」を開校

Q なぜ英会話スクールを
開校しようと
思われたのですか？

自分は何がしたいかを考えた時、英会話ス
クールで生徒の成長を間近で見ながらや
りがいを感じていたことを思い出し、自分
のスタイルで開校しようと考えました。就
職したら自分の考え通りにはできないだろ
う。でも、自宅でなら外に出たりして、英語
で天気の話もできる。畑の野菜を収穫した
り、クッキングしたりして、四季折々の生活
から生きた英語を楽しんでもらおうと、体
験型英会話スクールを開校しました。

真の英会話講師を目指して勉強あるのみ!

生徒さんに一歩ずつ着実に学んでほしいと思い、旧姓の亀澤にちなんで「タートルフレンズ」と名付
けました。スクールでは、2歳児から72歳まで幅広い方が学び、学童やSkypeでも指導しています。
縁あって留学斡旋のお仕事もさせていただいていますが、生徒さんが海外で生き生きと英語をもの
にしていることを知ると、私ももっと高いティーチングスキルで英語を教えられるようになりたいという
気持ちになります。将来的にはTESOL(英語教授法)を取得し、真の英会話講師を目指します!



東海学生サッカートーナメントを制覇し、東海地区第一代表として「第43回総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント」に出場

7月20日(土)、「第43回総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント(以下、総理大臣杯)」の東海地区第一代表を決定する、「第66回東海学生サッカートーナメント」決勝戦が行われました。前期リーグ戦全勝の東海学園大学と争う決勝戦は、点を取り合う展開で緊迫した好ゲームとなりました。結果は、後半アディショナルタイムに東山(経営学部2年生 静岡学園高等学校出身)の得点で4-3として接戦を制し、東海地区第一代表として、総理大臣杯への出場を果たしました。総理大臣杯における目標は前回出場した際の3位以上でしたが、先ずは、近年全国大会で壁となっている2回戦からの関東・関西代表に勝利することでした。8月29日(木)に行われた1回戦の高知大学戦は、支配率・シュート数とも圧倒するものの、ゴールを割ることができず苦しい展開となりましたが、延長前半2分、後半途中に投入された早川(経営

学部2年 磐田東高等学校・ジュビロ磐田ユース出身)の得点で何とか勝利することができました。2回戦は9月1日(日)、昨年の全日本大学サッカー選手権(以下、インカレ)で優勝し、現在、大学サッカー界をリードする法政大学との対戦です。試合は攻守とも法政大学が上回り、一矢報いるものの1-4で敗れ、目標に近づくことさえも叶いませんでした。選手からは、「スキルに加えメンタル面でも強いものを感じた。これに追いつかなければいけない。」と前向きな声があがりました。今回の総理大臣杯出場を良い経験で終わらせることなく、今後の活動において活かせるよう、PDCAサイクルにより競技力とチーム力を高める努力をしていきたいと思います。最後に、出場にあたり、サポートいただきましたスポンサー様・地域の皆様・ご家族・教職員の方々に厚く御礼申し上げます。



産大生が藤枝市の魅力を「産大TV」で発信!公開中

「産大TV」は藤枝市産学官連携推進協議会事業の一環として、本学とTOKAIケーブルネットワークとの協同企画。藤枝市の活性化を目的に、市の魅力を伝える情報番組を制作し、ネット配信を続けています。昨年度は田畑教授のゼミ学生が「藤枝市のグルメや店舗、スポットなどの紹介」をテーマに、11本の番組を制作し視聴者に好評を得ました。そして、今年度は小谷内ゼミの学生が「藤枝市の産業・企業を紹介」をテーマに5本(11月5日現在)の番組を制作、ネット上で公開中。今後、さらに5本以上の制作が予定されています。最初、カメラを前に企業の方にインタビューし、企業紹介することに戸惑いと恥ずかしさを感じていた学生も、回を重ねるごとにリポーター活動が板についてきました。ぜひ「産大TV」を御覧ください。https://tocochoan.tv/sandai-tv/index.html



「海外研究(ビジネス)」でグローバルビジネスを学ぶ

「海外研究(ビジネス)」は、多様な文化とビジネスの現場体験を通じて、グローバルな思考力を身につけ、日本及び世界で活躍できる人材育成を目的とした研修です。2019年度の研修ではグローバルに事業を展開する韓国企業のサムスン、韓国大手芸能事務所のSMエンターテインメント等を訪問しました。また、韓国に進出している日系企業の丸亀製麺、モスバーガー、CoCo壱番屋へ、事前調査を踏まえグループごとに訪問し、日韓の経営の相違等について分析を行いました。その他、今回の研修では、協定校である大真大学の学生との交流や文化遺産の見学等で様々な韓国文化に触れることができました。参加学生は、グローバルビジネスの実態について学ぶと共に、多様な文化体験を通じて、異文化理解を深めることができました。



「留学生日本語弁論大会」静岡県大会で最優秀賞を受賞

7月14日(日)、静岡市のグランシップで開催された「第16回WFWP留学生日本語弁論大会静岡県大会」に本学の留学生4名が出場し、情報学部4年のリジヤニ・アギスタさん(インドネシア出身)が最優秀賞を受賞しました。リジヤニさんは母国にいた頃、成功することが幸せだと信じ、様々な困難を乗り越えて大学への進学、日本への留学という夢を叶えてきましたが、日本でのボランティア活動や障害のある方との出会いを通じて、本当の幸せはたくさんの人の役に立つことだと気づいたと発表し、会場の方々から大きな拍手をいただきました。大学生生活の記念として、どうしても出場しなかったというリジヤニさんは、大会終了後、「たくさんの人に発表を聞いていただくことができ、皆さんに感謝します。とてもいい経験になりました」と感想を述べました。



藤枝市立図書館との連携事業で学生が小学生の夏休み自由研究を応援

藤枝市立駅南図書館と本学図書館との連携事業の一つ「自由研究のスタートを応援～大学生とテーマを決めよう～」が8月1日(木)、藤枝市立駅南図書館にて開催されました。本学教職課程(情報)履修3年生の4名が企画段階から参加。講座開催日時の決定、広報、学習内容の決定及び資料作成等を図書館職員の方と協力し自主的に取り組みました。講座の前半、学生は小学生を対象にパワーポイントでの事例紹介やアドバイスをを行った後、実際に小学生自身が興味のあることや好きなことをワークシートに書き出す作業をサポートしました。その間、保護者には、教員による講座「自由研究に取り組む子どもへの接し方」を受講して頂きました。後半は、小学生・保護者の皆様と学生が図書館内の本を手がかりに討論し、研究テーマが決定されました。



アスリートのためのキャリアガイダンスを開催

9月19日(木)、磐田キャンパスで「現在のスポーツ活動を整理して、競技力向上を図る」をテーマにキャリアガイダンスが行われました。対象となるアスリート学生が競技・学年に関係なく多数参加。SSKリレーションズ様の講話では「整理がなぜ必要で、整理して取り組むことでどのような効果が望め、そして、その結果どうなるのか」を、種目別に具体例を挙げながらご説明いただきました。「効果・効率的な取り組みは、自身の競技力向上に限らず、チームの強化にも繋がり、その結果、進路選択活動では自身のPR素材となり、評価の対象にもなる」とのお話に、参加者は熱心に聴き入っていました。キャリア支援課では、アスリートの皆さんが今回のテーマを実践し、その成果を言語化・文章化できるよう、勉強・講習会の開催や面談等で個別にサポートしていきます。



スポーツ保育サークル「すきゃもん」で中学生ボランティアが活躍中

現在、磐田市立福田中学校1年生の今田夏奈帆さんが、スポーツ保育サークル「すきゃもん」主催の「キッズスクール」でボランティア・スタッフとして活躍しています。今田さんは小学校3年生から6年生までキッズスクールの受講生として参加。この春からは学生の補助要員として、スクールで使用する道具の準備や片づけ、子どもへの模範演技などを担当しています。今田さんは中学校では卓球部に所属。学外ではトランポリン、競技エアロビ、国際交流など幅広く活動しているため、「すきゃもん」への参加は部活動のない日に限られます。それでも、憧れの大学生と同じユニフォームをもらい、自分の名前から選んだ「74」の背番号をつけて頑張っています。今田さんの活躍は、「すきゃもん」の学生に程よい緊張感を与え、指導する上で良い刺激にもなっています。

